

販売図書のご案内

●「ふじさんミュージアム 展示解説」

リニューアルされた展示の詳細な解説書です。富士山信仰を中心に地域の歴史・文化・民俗をわかりやすく紹介しています。  
 体裁：A4版フルカラー／80頁／390g  
 価格：1,000円



●「富士講のヒミツ」 ヒミツシリーズ第4弾！

富士山を信仰し登山する団体「富士講」について、こども向けにわかりやすく解説しています。  
 体裁：A5版フルカラー／34頁／65g  
 価格：100円



●「縄文人が目撃した富士山噴火」 平成28年度企画展示解説

富士山が激しく噴火していた縄文時代。人々は、どのような災害に直面し、いかにして復興したのか、遺跡の発掘調査から得られた成果をもとに縄文時代当時のようすを考察します。  
 体裁：A4版フルカラー／18頁／80g  
 価格：200円



FUJISAN MUSEUM 富士山ミュージアム

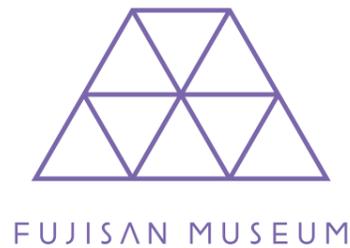
ご案内

開館時間／午前9:30～午後5:00 (午後4:30迄入館可)  
 休館日／火曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(日曜・祝日を除く)、年末年始  
 観覧料／御師旧外川家住宅との共通入館券：  
 大人400円(団体320円)  
 小中高生200円(団体160円)  
 ◎富士山レーダードーム館・御師旧外川家住宅との共通入館券：大人800円(団体600円)  
 小中高生450円(団体350円)  
 交通案内／●中央自動車道河口湖ICより車で15分  
 ●東富士五湖道路山中湖ICより車で10分  
 ●富士急行線富士山駅より山中湖方面バス15分「サンパークふじ」または「富士山レーダードーム前」下車  
 駐車場／西側駐車場：普通車35、バス6  
 東側駐車場：普通車20、バス5、身障者1



博物館附属施設  
 御師 旧外川家住宅のご案内  
 〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田3丁目14-8  
 TEL 0555-22-1101  
 観覧料／大人 100円(団体80円)  
 小中高生50円(団体40円)  
 ※ふじさんミュージアムのチケットで入館できます。

タイトルの「MARUBI」は富士山から流れ出た溶岩台地一帯を指すこの地方のことば「丸尾」からとったもので、丸尾とは溶岩が流れ出る様子の「転び」が転化(変化)したものとされています。



Contents

- ・博物館Report …… 1-7
- ・販売図書のご案内 …… 8



■表門での記念撮影 大正11(1922)年

御師 浅間坊表門の保存と修理

旧外川家住宅と表通りを挟んで浅間坊の表門があります。この表門は、上吉田に現存する御師住宅の数少ない門のひとつです。浅間坊の屋敷は、のちに大規模な増改築が行われましたが、建物はそのままの状態を守り継がれてきました。この表門は、富士山信仰における貴重な建造物として平成27年に富士吉田市の指定文化財に登録されました。そして、浅間坊に現存する建物の所有者の方々から、今後永年にわたってこの貴

重な文化財を守り伝えることを願って、その全てを富士吉田市に寄贈いただきました。この表門は建立後からの長い年月により軸組の緩みや比較的大きな屋根によって傾きもみられ、地震等による倒壊も危ぶまれていたため、一刻も早い修理工事が必要とされていました。富士吉田市は、文化財として後世へ引き継ぎ、この富士山信仰ゆかりの貴重な建造物を広く一般へ公開することを目的として、平成27年5月～平成28年3月まで保存修理工事を行いました。

【写真解説】

浅間坊の門前で撮影された写真です。裏に年月日と人名が記されており、左から順に、母親、娘、料理人ということが分かります。御師の家には、団体で多人数が泊まることから、家族だけではなく、近隣人から住み込みで手伝いに来てもらい、静岡県沼津市などから料理人に住み込みで来てもらうということも多くありました。写真に写る料理人も、夏の2ヶ月間だけ住み込みで来ていたと思われます。

博物館Report

御師 浅間坊

浅間坊(屋号)は、元龜元年(1570)にはその名を確認できる古い家筋で(「西念寺領置日記」西念寺文書)、代々、小佐野出雲もしくは右近を名乗り、御師として活動してきました。(表1)

元龜3年(1572)に古吉田の地から現在の上吉田に移転した際、西町(表通りから西側)の北端に屋敷を構えた御師です。元龜3年の町割り当初は、この浅間坊が位置するまでの範囲であり、ここから北側の町割りである下宿は、慶長年間(1596-1614)に新に追加された範囲となります。御師浅間坊は、食行

身祿を信奉し、かつては食行身祿が富士行者として活躍する以前の生業とされる「油売り」をしていた道具があったと伝わります。この道具は檀家である「丸不二講」に渡り、その後焼失したといわれています。

昭和に入り、第二次世界大戦、スパルライン開通など時代の変化とともに訪れる富士講の数も減っていくなかで、昭和30年代以降は、これまでと変わらず富士講も迎え入れつつ、旅館として登山客や観光客を受け入れてきました。旅館としての営業は昭和60年代まで続き、御師の家を守

■表1 浅間坊の系譜

和暦	西暦	名称	出典・備考
元龜元	1570	浅間坊	『富士吉田市史』資料編 第2巻No.492
天正20	1592	浅間坊	『富士吉田市史』史料編3巻No.84
文祿4	1595	浅間坊伊勢	『市史』史料編5巻No.144
慶長5	1600	浅間坊	『市史』資料叢書6巻P59
寛永元	1624	小佐野右近	小佐乃哲男家文書 近世1
寛永7	1630	浅間坊	『市史』史料編5巻No.177
寛文9	1669	右近	『市史』資料叢書6巻P232
貞享5	1688	浅間坊長二郎	『市史』史料編5巻No.145
元禄13	1700	豊右衛門	小佐乃哲男家文書 近世2
宝永5	1708	小佐野右近	『市史』史料編4巻No.873
享保15	1730	右近	『市史』史料編5巻No.44
享保18	1733	浅間坊右近	『市史』史料編5巻No.131
宝暦14	1764	浅間坊团右衛門	『市史』史料編5巻No.193
安永3	1774	浅間坊右近	早川日出子家文書 御師15
寛政11	1799	小佐野出雲	『市史』史料編5巻No.109
享和2	1802	小佐野出雲	『市史』史料編5巻No.311
享和3	1803	浅間坊	小佐乃哲男家文書 近世8
文化7	1810	小佐野右近	『市史』史料編5巻No.152
文政元	1818	浅間坊出雲	上上司厚家文書 富信79
天保8	1837	小佐野右近	『市史』史料編5巻No.291
天保10	1839	小佐野出雲	『市史』史料編5巻No.123
嘉永4	1851	小佐野生太郎	上上司厚家文書 私経済67
安政5	1858	小佐野出雲	『市史』史料編5巻No.174
慶応3	1867	小佐野出雲	『市史』史料編5巻No.299
明治初	1868-9	小佐野孝磨	地券一筆限帳
昭和17	1942	小佐野三江	
昭和32	1957	小佐野 茂	



■図1 上吉田屋敷割図



■富士山北口本宮富士嶽神社境内全図(部分)



■丸八講の記念写真 昭和28(1953)年

り継いできました。

屋敷については、表通りに面して建物がありましたが、江戸時代はタツミチ(幅3~4m、奥行30~50mほどの細長い引き込み路)があり、その奥に主屋があったと伝わっています。明治時代に入って、本来あった奥の屋敷地を売却して現在の屋敷地の範囲になったとされます。明治25年(1892)に発行された銅版画「富士山北口本宮富士嶽神社境内全図」をみると、「小佐野三江」の氏名があり、すでにタツミチはなく、表通りに面したかたちで屋敷が描かれています。表門もほぼ同じ位置と規模で確認することができます。明治25年以前に屋敷の大きな改変があったと考えられます。

浅間坊は多くの檀家を抱える御師でした。そのため登山期の多かったときには一度に300人が宿泊したこともあるそうです。浅間坊に泊めきれないほど大勢の宿泊があった場合は、関係のある他の御師や農家に宿泊を頼みました。おもな檀家は千葉の「山水講」・東京の「丸不二講」・神奈川の「丸伊講」「丸金講」「山三講」などの講社と関係がありました。(表2)

右写真の丸八講は、千葉県市原市八幡の富士講で、地元の神社である飯香岡八幡宮には、立派な富士塚があることで知られます。注連縄がかかる石碑の建立記念で写されたものです。この石碑は今も現地に立ち、「名誉先達 富徳山源行」とあることから、名誉先達の富徳山源行を顕彰する目的で建てられたことが分かります。

※参考文献「上吉田の民俗」富士吉田市民俗調査報告書第九集 平成元年 富士吉田市

■表2 浅間坊の檀家一覧

名称	所在地	宿泊の有無		名称	所在地	宿泊の有無		
		戦前	戦後			戦前	戦後	
山水講	千葉県夷隅郡旭町長者	○	○	山水講	千葉県上埴生郡東村小生田	○		
	千葉県夷隅郡旭町江場土	○			千葉県上埴生郡武丘村蔵持	○		
	千葉県夷隅郡旭町三門	○			千葉県市原郡八幡町八幡	○	○	
	千葉県夷隅郡旭町井沢		○		千葉県市原郡五井村五井	○	○	
	千葉県夷隅郡旭町東小高	○			千葉県市原郡五井村君塚	○	○	
	千葉県夷隅郡中魚落村小浜	○			千葉県市原郡市原村郡本			
	千葉県夷隅郡東海村日在	○			千葉県市原郡海上村小折			
	千葉県望陀郡久留里町市場	○	○		千葉県市原郡湿津村勝間	○		
	千葉県望陀郡久留里町川谷		○		千葉県市原郡湿津村小田部		○	
	千葉県望陀郡久留里町大谷				千葉県市原郡市西村福増	○	○	
	千葉県望陀郡久留里町怒田				千葉県市原郡市西村武士			
	千葉県望陀郡久留里町向郷	○			千葉県市原郡養老村土宇			
	千葉県望陀郡久留里町富田	○			千葉県市原郡養老村大桶	○		
	千葉県望陀郡久留里町愛宕	○			千葉県市原郡養老村川在	○		
千葉県望陀郡久留里町芋窪				千葉県千葉郡誉田村十文字				
丸不二講	千葉県望陀郡木更津町木更津	○	○	山正広講	東京都東京市芝区芝	○		
山水講	千葉県望陀郡木更津町貝淵	○	○	—	東京都東京市牛込区早稲田町			
	千葉県望陀郡真舟町請西			—	東京都東京市下谷区上野三橋町			
	千葉県望陀郡清川村椿			—	東京都東京市浅草区千束町			
	千葉県望陀郡清川村中尾			丸生講	東京都東京市本所区林町			
	千葉県望陀郡清川村菅生	○			東京都東京市深川区富岡門前町			
	千葉県望陀郡清川村永井作			—	東京都東京市深川区大工町			
	千葉県望陀郡清川村長須賀	○	○	—	東京都北豊島郡尾久村尾久			
	千葉県望陀郡巖根村江川	○	○	山正広講	東京都南豊島郡渋谷村豊沢	○	○	
	千葉県望陀郡中郷村牛袋	○	○	丸不二講	東京都南葛飾郡吾郷村請地	○	○	
	千葉県望陀郡中郷村大寺				東京都南葛飾郡亀戸村亀戸	○	○	
	千葉県望陀郡中郷村有吉				東京都南葛飾郡大島村大島	○	○	
	千葉県望陀郡小櫃村寺沢	○			東京都南葛飾郡大島村深川出村	○	○	
	千葉県望陀郡松丘村大戸見			—	神奈川県横浜市万代町			
	千葉県望陀郡松丘村平山	○		山三講	神奈川県三浦郡横須賀町横須賀	○	○	
	千葉県望陀郡松丘村山瀧野	○		—	神奈川県三浦郡横須賀町楠ヶ浦			
	千葉県望陀郡松丘村大坂			山三講	神奈川県三浦郡横須賀町逸見	○		
	千葉県望陀郡松丘村柳城			丸伊講	神奈川県三浦郡浦賀町吉井			
	千葉県望陀郡龜山村笹				神奈川県三浦郡浦賀町大津			
	千葉県望陀郡龜山村坂畑	○			神奈川県三浦郡浦賀町鴨居	○		
	千葉県望陀郡鎌足村矢那				神奈川県三浦郡浦郷村田浦	○		
	千葉県周准郡波岡村畑沢	○	○		神奈川県三浦郡豊島村不入斗	○		
	千葉県周准郡周西村大和田				神奈川県三浦郡久里浜村内川新田	○		
	千葉県周准郡周西村人見	○			神奈川県三浦郡北下浦村長沢	○	○	
	山水講・山包講	千葉県周准郡周西村久保			丸登講	神奈川県久良岐郡戸太村戸部	○	
	山水講	千葉県周准郡貞元村下湯江	○		富士霞講	神奈川県久良岐郡中村中村	○	
	山水講・山包講	千葉県周准郡貞元村八幡	○			神奈川県橘樹郡神奈川町芝生=浅間町	○	○
	山水講	千葉県周准郡飯野村二間塚	○		丸金講	神奈川県橘樹郡小机村下菅田	○	○
千葉県長柄郡土睦村岩井		○			神奈川県橘樹郡小机村羽沢		○	
千葉県長柄郡八積村金田				丸羽講	神奈川県橘樹郡小机村羽沢			
千葉県長柄郡八積村宮原		○		丸金講	神奈川県橘樹郡子安村子安	○	○	
千葉県長柄郡水上村刑部		○		—	神奈川県橘樹郡生見尾村生麦	○		
千葉県上埴生郡西村佐坪		○	○	丸金講	神奈川県都筑郡都田村川向			
千葉県上埴生郡西村茗荷沢				—	神奈川県都筑郡新治村上菅田	○	○	
千葉県上埴生郡西村小沢		○		—	神奈川県都筑郡西谷村上星川			
千葉県上埴生郡西村市野々				八海講	長野県上高井郡山田村			
千葉県上埴生郡東村中原		○						

※「上吉田の民俗」富士吉田市民俗調査報告書第9集 富士吉田市教育委員会 1989から転載。  
 ※所在地及び名称は「永代記録簿」(明治28～大正10年)による。  
 ※所在地の表記は明治22年の市町村制の施行時による。  
 ※宿泊の有無は、話者(明治35年生/明治44年生)からの聞き取りによるもの。戦前は大正末～昭和10年代、戦後は昭和20年代以降

浅間坊表門

現在、上吉田の御師住宅において、木造の門は9棟が現存しています。そのうち7棟はツツミチの奥にある中門で、残る2棟がツツミチを持たずに通りに面して建つ表門です。この現存する表門のうちの1棟が浅間坊表門であり、もう1棟は中雁丸家の表門です。

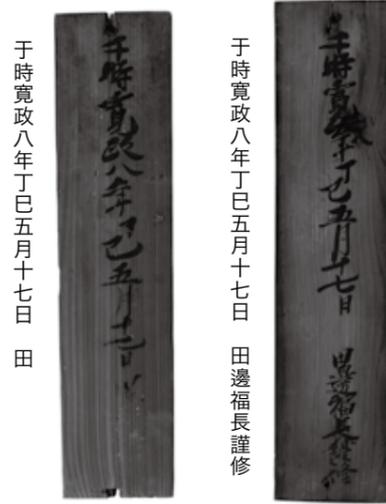
浅間坊表門は、中雁丸家表門や外川家中門と建造物としての大きさは同じ規模ですが、それらと比べても斗拱・蟻股・虹梁・大瓶束の妻飾りなど社寺の様式をもつ豪華な造りとなっています。また、上吉田の建物屋根は、その多くが板葺きの屋根でしたが、浅間坊表門の建築当初

の屋根は、上吉田ではあまり例のない檜皮葺きを取り入れるなど、非常に貴重な事例であることが解体調査で明らかになりました。北口本宮富士浅間神社の社殿整備に携わった地元の大工である萱沼家には、浅間坊表門の図面が残っています。(写真)この図面には、江戸大工の記載があることから江戸大工が関わることから江戸大工である萱沼家が参画していたことも推察されています。またこの図面によって痛みが激しかった屋根部の形状を再確認することができました。実際の保存修理では、街中で近接している建物も多く、防火対策の面から銅版葺きとしました。また、妻側に「丸不二」の紋が装飾されていることから、東京や千葉で隆盛した富士講の「丸不二講」が浅間坊表門建立時が多大な貢献をしたことがうかがえ、御師と富士講との深い結びつきが読み取れます。上吉田に残る他の門は、上記のような装飾をほとんど持た

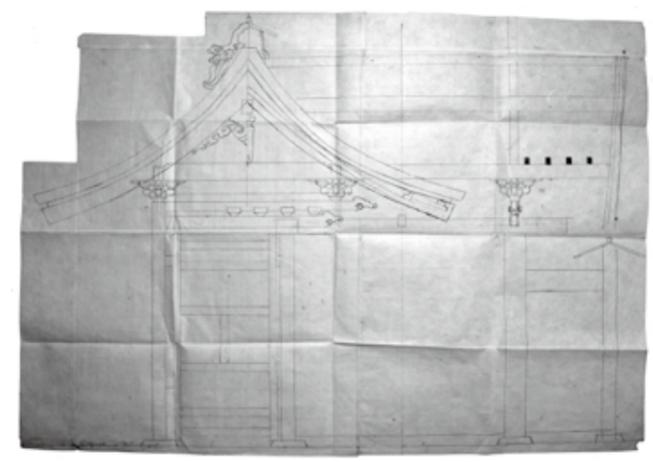
ず、周辺の類似する門としては、同じく御師町を形成していた河口の集落(富士河口湖町川口)に残る三浦家の門が同様の様式を持っています。この門は棟札によると天保12年(1841)で、浅間坊と比べると木柄が太く、装飾も比較的簡素となっています。また、近接する外川家中門(薬医門)が、裏座敷の建築された万延元年(1860)、いわゆる「ご縁年」に当たる年に前後して建て替えられたと考えられています。浅間坊の「表門」については、外川家中門よりさらにさかのぼることが解体調査の際にわかりました。2本の柱に1枚ずつ祈禱札(棟札)が打ち付けられており、表面には「奉謹辭横磬間戸神 安鎮座」と神名が記され、裏面に「于時寛政八年丁巳五月十七日 田邊福長謹修」と年代が記されていることから、寛政8～9年(1796～1797年)に門が建立されたと考えられます。



■棟札(表面)



■棟札(裏面)



■浅間坊表面図面 個人蔵

表門概要

●木造一間一戸薬医門、切妻造、  
亜鉛鍍鉄板瓦棒葺、北側袖塀  
潜り一戸附属

(規模)

桁行(本柱間) 2,666 (8.80尺)

梁間(本柱～控柱間) 1,506  
(4.97尺)

軒の出(丸桁芯～茅負下角)  
1,212 (4.00尺)

丸桁高(基礎天端より) 3,182  
(10.50尺)

(構造形式)

①平面

本柱間に両開き棧唐戸を肘壺金物で吊っています。両袖塀が付きますが、向かって左側(南側)は失われており、右側(北側)は旧館外壁に突きつけとなっており、旧館増築時に切り縮められたものと思われます。北袖には潜りが設けられ、片開き棧唐戸が同じく肘壺金物にて釣り込まれています。本柱と控え柱の間にはどちらも片筋違いが入り、筋違より下の三角形に縦板張りとなっています。これは後の補ったものです。また、現在は右側(北側)袖と控え柱への筋違い、旧館建物外壁戸に囲まれた部分は戸板などで囲われて物置となっていました。

②基礎

柱下に切石方形の礎石を据え、柱間には布石を回しています。また、門扉の手前は道路より本柱礎石内法幅で切石敷きとなっています。

③軸部

本柱(鏡柱)は240×150mmの五平で、控柱は150×150mmの角柱。本柱間には蹴放が入りますが修理時には失われており、袖塀部分には土台を回していました。本柱間は、柱上部に楣を入れ冠木を載せています。

本柱と控柱間は足固貫・内法貫で固め、冠木に載せた女梁に斗を挟んで男梁を控柱へ掛け渡しています。控柱間には虹梁型頭貫を入れ木鼻を作ります。男梁先端と控柱上に出三斗を載せ、中備に養股、虹梁・大瓶束で棟木を支えています。

④軒廻り

二軒疎垂木とし、化粧裏板張り。

⑤妻飾り

本柱上男梁の上に出三斗・中備に「丸不二」の講印を彫刻した養股を配し、虹梁をかけて大瓶束を立て、東上には大斗肘木を載せて棟木を受けています。大瓶束には結綿・笈形が付く装飾豊かな造りとなっています。眉付きの破風に蕨懸魚・鱧が付付けられています。修理前は、懸魚や鱧に一部欠損があり、六葉も失われていました。

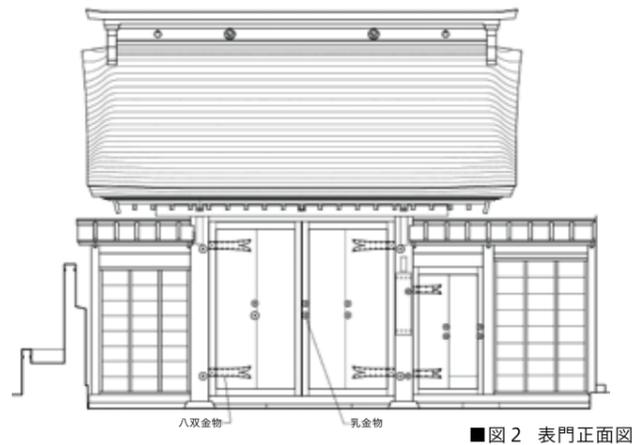
⑥屋根

亜鉛鍍鉄板瓦棒葺。二重軒付けで亜鉛鍍鉄板包み。箱棟・鬼板・鳥衾共鉄板包み。すべて既存の塗色は銀色が施されていました。箱棟には正面2個所に「丸不二」講の紋、表・裏共2個所に吊環が付いています。

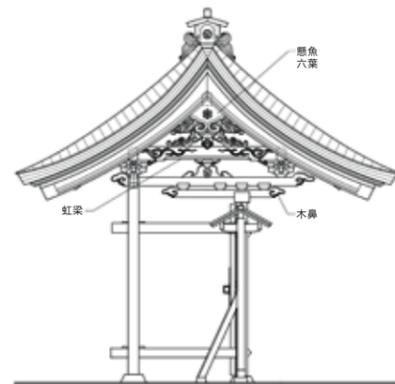
小屋組については野棟木が棟束より約6寸ほど持ち上げられており、当初の屋根より勾配を取って棟を高くしている可能性があります。修理前は、軸部を含めて小屋組の傷み、すなわち仕口の外れている箇所や材の折損なども見られました。また、旧館に接する部分で、鳥衾・ケラバが切られていました。

⑦金物

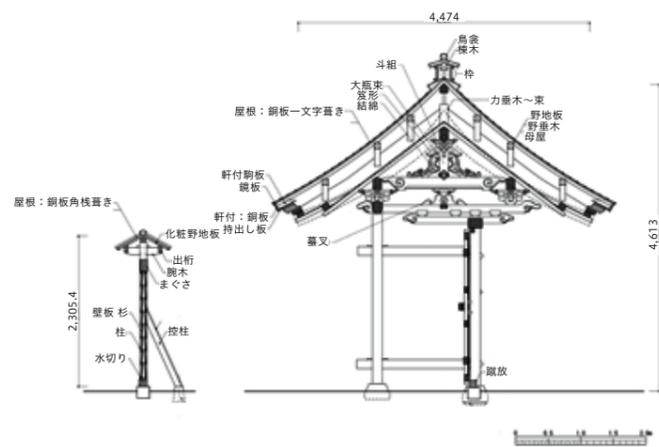
大扉・潜戸共に肘壺金物・八双金物で釣り込み、乳金物・門通し金物が付きます。これら金物の一部は失われていました。



■図2 表門正面図



■図3 表門側面図1



■図4 表門側面図2

※規模および構造形式の記述は、修理工事にともない北川洋氏に作成いただいた「浅間坊表門調査報告書」から一部加除修正引用。



■保存修理完成後の表門



■旅館経営時の表門

浅間坊表門の活用に向けて

門の保存修理を終えて、今後富士吉田市の指定文化財として保存活用されていきますが、同様に旧旅館や付随する建物についても、「御師 浅間坊」として文化財である表門にふさわしい整備が望まれています。旧旅館部分に関しては建造物調査を実施し、状況を調査しました。その結果、昭和における改築が著しいことと、耐震対策の問題もあることから撤去することになりました。表門からみ

て奥に建つ現代の建物は、外装を変更して門との整合性を図っていきます。この建物は、1階フロアを展示スペースとして浅間坊や富士山信仰の資料等の展示を行うとともに、併せて地域コミュニティが活用できる空間としての整備活用を検討していきます。

また、将来的な目標になりますが、御師住宅としての景観形成を考え、残る家屋を解体撤去し、御師住宅を復原していくことも

検討しています。現状、建物に関する具体的な資料が残されていないため、明治25年の「富士嶽神社境内全図」にみられる家屋や他の御師住宅の間取りを参考とし、指定文化財の表門との調和がとれる外観構成とした推定復原の家屋を目指します。活用面では、富士山信仰や御師の文化を学ぶ人々(市民・来訪者)が交流できる空間の提供をめざして多様なニーズに対応が可能な施設

整備を目指します。屋敷の座敷や広間を利用して、市民に親しみやすいワークショップや講座等の学習施設としての利用や宿泊体験などの体験施設として活用できるものと考えていきます。また、ふじさんミュージアムで収蔵管理されている浅間坊の富士山信仰に関する資料を展示し、富士山信仰を身近に感じ取れる施設としての展示空間を整備することを検討しています。



■旅館建物の撤去後



■推定復原イメージ図